

PRESS RELEASE

2018年1月9日

コミュニケーションロボット NAO を用いた介護予防体操アプリを開発 老人ホーム 23 施設で導入

㈱長谷工シニアホールディングス（本社：東京都港区、代表取締役：浦田慶信）は、このたび、㈱長谷工アネシス（本社：東京都港区、代表取締役社長：木下寛）と連携し、新たに開発した介護予防体操のアプリケーション「NAO 版ゆうゆう体操」^(※1)を、傘下の㈱生活科学運営と㈱センチュリーライフが運営する全国の老人ホーム 23 施設へ導入しました。

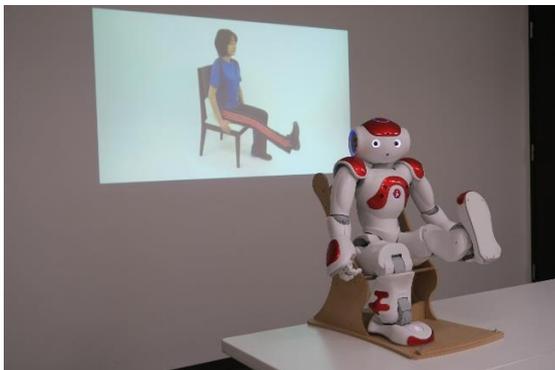
今回開発した「NAO 版ゆうゆう体操」は、コミュニケーションロボットの NAO が介護予防運動指導員の代わりになり、体操の仕方や効果を音声と画面の映像を使って説明をする他、毎日異なる話題提供等を行なうものです。NAO は、足が動くため、椅子に着座した状態での足の運動を実演することが可能です。

長谷工グループでは、介護予防体操「ゆうゆう体操」を広く展開するため、介護予防運動指導員だけでなく施設スタッフも体操の模範を行ってききましたが、ロボットに任せることで、施設スタッフの負担が軽減され^(※2)、参加者一人ひとりへの体操補助ができるようになります。また、ご入居者に実施したアンケートでは、体操への参加率が増加し、介護予防運動指導員が体操の模範を行った際と同様に、ロボットの掛け声により正しい姿勢で、体を大きく動かすことができたという結果が見られました。

昨年9月から導入した 23 ホームでは、ご入居者と NAO が一緒に体操する光景が日常的に見られます。これからもコミュニケーションロボットの力を上手に活かしながら、より良い生活を提案してまいります。

(※1) 「NAO 版ゆうゆう体操」は長谷工アネシスとロボットのモーション開発において実績を持つフューブライト・コミュニケーションズ㈱（本社：東京都中央区、代表取締役社長：居山俊治）が協働して開発しました。2017年6月には「Pepper 版ゆうゆう体操」を開発しています。「ゆうゆう体操」は、健康寿命を延ばすことを目的として、長谷工シニアグループが運営する高齢者住宅のご入居者と介護予防指導員が 10 年に亘りつくり上げたもので、車いす利用者でもできる座った状態での体操です。

(※2) 施設スタッフに実施した、負担に思う仕事について聞いたアンケートの上位に“アクティビティの主導”という項目が挙がり、人前に出て模範等を行なうことを苦手と思うスタッフにとっては、ロボットがその役割を担うことで、負担が軽減するという結果も出ています。



モニター連携で体操をする NAO



NAO と体操をするご入居者とスタッフ

【「NAO版 ゆうゆう体操」の特徴】

- 1.健康寿命の延伸を目的に作成し、介護予防運動指導員が監修
- 2.体操の動きや効果をモニターの動画やNAOの音声を使って分かりやすく説明
- 3.季節感のある話題から体操をスタート（飽きの抑制）
- 4.毎日異なるメニューで体操を行えるオリジナルコース作成機能

【長谷工グループでの介護における省力化・自動化・ロボット化】

- ・2011年にJST（国立研究開発法人科学技術振興機構）が主催する戦略的イノベーション創出推進プログラムに参画。その他、業界団体を通じて情報共有や現場の問題意識抽出などを実施。2016年7月に、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）による実証試験（※3）に採択され、3種類のコミュニケーションロボット57台を27施設に導入して大規模な実証試験を実施。2017年6月に「Pepper版ゆうゆう体操」を開発し、商品化。

（※3）平成28年度ロボット介護機器開発・導入促進事業（基準策定・評価事業）「ロボット介護機器開発に関する調査」に係る実証試験実施施設の募集

【会社概要】

㈱長谷工シニアホールディングス

- ・代表取締役社長：浦田慶信
- ・資本金：100百万円
- ・本社：東京都港区芝四丁目2番地3号
- ・主事業：有料老人ホームの運営及びコンサルタント業務、介護保険事業など

㈱長谷工アネシス

- ・代表取締役社長：木下寛
 - ・資本金：2,000百万円
 - ・本社：東京都港区芝二丁目32番地1号
 - ・主事業：電力サービス、保険サービスなど
-